

めだかの学校たより

平成20年2月1日
第59号

学舎：東久留女木新田観音山
「みどりの郷キャンプ場」内
事務局：静岡県磐田市
家田 529-20
TEL0539-62-6691

校長訓話

第五十九回 校長 榊原 淑友

「教育再生の鍵は

トイレ掃除にあり」

トイレ掃除に学ぶ

泉陽中学校2年

AOさんの作文より

「私は始めトイレ掃除を素手でやることは正直、嫌でやりたくありませんでした。でも、指導してくださる大人の方々の姿を見ると、とても一生懸命で「自分もやってみよう」と思ってきました。素手でやるということに抵抗があったけど、勇気を出して磨いていくとだんだんときれいになりました。始めは、さわることも嫌だった私から、時間がたつにつれ「あそこが汚れているから頑張ってみよう」という気持ちになり、汚れているところを見つければいいきました。始めは、汚くて臭く使う気がしなかったトイレが、最後には壁も床もトイレも全てが、ぴかぴか光っているトイレになり、うれしかったし「やってよかった」という達成感がありました。この活動を通して私は泉陽中のリーダーとして、みんながやらないことにも挑戦していきたいし、小さなことでも気づいて行動に



移せる人になりたいです。それに人や物に、感謝の気持ちを持って接していきたいです。この活動で、もう一度、今までの自分を振り変えることができよかったです。」

この作文は昨年3月、泉陽中学校主催のリーダー講習会（森町掃除に学ぶ会後援）に参加してくれた一人の反省文です。

昨今の混乱する大人社会の中にあって、なんと素直ですばらしい生徒さんなのでしょう。さらに参加した生徒の大多数がこのような素晴らしい気づきと感動の体験文を書いてくれました。先生が生徒と一

緒に、ただひたすらトイレ掃除をすることで、子供が変わり、学校が変わる。私この掃除の会との出会いは、平成13年愛知県安城市で開催された「便教会」教師の教師による、教師のためのトイレ掃除に学ぶ会でした。この掃除の会の提唱者、日本を美しくする会の相談役鍵山秀三郎さんの言葉に「1つ拾えば1つだけきれいになる」があります。まず、自分に来るところから、徹底して掃除をさせていただくことによって、地域が変わり日本が変わる。こんな掃除の輪が広がってくればこんなに嬉しいことはありません。

追伸、掃除実習希望の方は午後3時より学舎のトイレ掃除を行いますのでお集まり下さい。
感謝

【紹介記事のお願い】

第6回遠州森町発「町並みと蔵展」が4月5日（土）6日（日）の両日、森町の中心市街地で開催されます。めだかも頑張つて多数参加してまいりますので是非のぞいてみて下さい。



めだかの学校伝言板

——第59回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／榊原淑友

教頭／内山ゆきゑ

用務員／鈴木啓之

給食係／水野忠義、村木謙之、浜口弘陸、加藤直樹、間瀬亮太、萩田博、古田賢二郎、荒木順子、島田尚子、大貫正信、西川裕子、尾上美智子、大谷香代子、渡辺三ツ子（チーフ）

<学舎> 静岡県浜松市北区引佐町東久留女木観音山
みどりの郷キャンプ場

開校日／平成20年3月7日（金）6：20PMより——
受付／山田茂太郎、内田貴久、若森光子、斉藤昭（後見人）
<時間割>～15周年通年テーマ「界を越えて」～

「方言は文化。蚊帳の外、ぶ～ん」

●1時間目 国語

「遠州弁でメールがみえるかや」加藤直樹先

●2時間目 美術

「アッと@蚊帳アート読めるかや」濱田綾子先生

●3時間目 社会

「いいだに これからどう結むかやア」大貫正信先生

●給食の時間～3月3日はひな祭り ひな御膳？～

（お箸はマイ箸、竹箸をつくります）

10：30 閉校

泳ぎ回るめだかたち

■再会

私たちの「なんでもあり農園」恒例の「サトウキビ刈り体験」は、今年で10回目を迎えた。その開始早々に、参加者にサトウキビのかじり方を説明していると、後ろから懐かしい声がした。

『あのう、昔引(すげひき)の山口です。』
 『あー、中伊豆の山口さん。最近、お見えにならないから、どうしたのかなと思っていました。遠いところを、本当によく来てくれました。』
 『3年前に、くも膜下出血をやってしまった。』
 『やー、出てこられるようになりました。』
 『やー、それは大変でした。でも、お元氣になられて本当に良かったです。』と久しぶりの会話が続いた。

かなり前になるが、中伊豆町での催しに参加して以来の縁で、山口さんは3時間もかけて私達の「なんでもあり農園」のサトウキビ刈り体験に何回も参加してくれていた。しかも、奥さんと子供たちのほかに両親や友人と一緒に、新鮮なワサビをどっさりを持って来てくれていた。ワサビの若い葉を天ぷらにするとおいしいということを教えてくれて、すぐに体験会の昼食でやってみると大好評であった。また、毎回、手打ち蕎麦を振舞っているが、これも本場の本ワサビ付きとなり、参加者は一様に驚くのであった。

そんな山口さんが、ここ数年は見えなくなっていた。毎年同じような催しであるのでもういいのかなと思っていたが、氣になっていた。しかし、そうではなかった。

頭蓋骨を半分ほど開けるような大手術を受けていたのである。久し振りにお会した山口さんは、顔色が白くなって、頭には生え際に沿って右耳から左耳につながる傷跡があった。そして、運よく全快されて、出かけられるようになったので、みんな来てみたとおっしゃっていた。そんな山口さんの闘病経験とわざわざ中伊豆から遠州まで「サトウキビ刈り」に出かけて来てくれた気持ちを聞いて、嬉しくて涙が出そうになった。本人はもちろん御家族の心配や苦労は大変なものがあつたと思われる。

素人仲間のサトウキビ栽培の目的は、他ではほとんどなくなった地産の砂糖づくりの原料確保を支援することである。そして、どうせやるなら、楽しく面白くということ、さまざまな野菜や花、ハーブなどを植え、作業体験イベントなども開いて来た。10年前は、ようやく農業体験の大切さが言われ始めた頃で食育という言葉はまだほとんど使われていなかった。しかし農園活動の発起人の深谷めだかや武史めだかは、すでに人と人の交流の場や子供たちの体験の場として、また農や食を通じてたまちづくり活動の一環としても取り組んできたのである。私も、ひよんがきやみ始めたのである。私も、ひよんがきやきかけで、お手伝いを続けて来ているが作物の栽培のほかに、物置小屋や温室を建てたりブドウ棚を作ったり、日曜大工好きにとっては、恰好の遊び場所である。また、農園活動をきっかけに、地元の農業者をはじめ極めて多くの方々と出会い、お付き合いを頂くようになった。時々、飽きて足が遠ざかることもあるが、今年のような素晴らしいことがあるとまた来年も頑張ってみようということになる。だいが、雑草に負けていますが、私達の「なんでもあり農園」に、是非お出かけ下さい。

(なんでもあり農園小作人の松)

■三遠南信アミよりお誘い

2006年2月の三遠南信発見・交流フォーラムin遠州、9月の三遠南信発見・交流フォーラムin三河に続く第三弾、「三遠南信発見・交流フォーラムin南信州」を2008年3月16日(日)に長野県下伊那郡阿智村の屋神温泉郷で開催します。「みち活用による広域交流や地域振興を目指すため今回柱としている企画は、

- ①現在三遠南信アミが長野県売木村で行っている美しい景観道づくりや地域資源活用のテーマルートづくりの紹介発表
- ②阿智村で取り組む「日本風景街道」古代ロマン東山道」の紹介発表
- ③地域交流・連携の仕組み「三遠南信みち・まち応援団」の提案などです。午前中は自由参加で東山道歩きエクスカージョンを実施。屋には三遠南信地域の物産販売や地元料理の昼食、午後1時から4時までフォーラム開催予定。前日、または当日屋神温泉郷でゆっくりゆっくりくつろぎながら参加もお薦め。誘い合わせてご参加下さい!! 問い合わせは(090-1385517590 水島加寿代メダカ)

■めだかの学校15周年記念行事

- めだかの学校の文化祭を開催致します。
- 【日時】4月5(土)・6日(日)
- 【会場】姫街道アートギャラリー内
(細江町姫街道中同日)
- 【内容】めだかの生徒の作品展です。陶芸、絵画、彫刻、クラフト等日ごろの皆様の力作を展示します。(販売可能)
- 【募集】参加希望の方は3月の学校までに「連絡下さい。搬入搬出は後日」連絡致します。
- 【参加費】無料(問い合わせは053-152312958 上嶋裕志メダカ)

■月遅れの『花桃の里おひなさん』

引佐町渋川のてんごうしづ川(代表伊藤茂男メダカ)では、今年も『月遅れ 花桃の里 おひなさんまつり』を3月16日(日)から4月5日(土)まで開催する。2500体余の雛人形が飾られ、暖かく迎えてくれます。今年も山荘展も併催する予定とか。問い合わせは、てんごうしづ川(053-154510452)

■浜松発信! まち、行っかー

『THE☆激練りMUSIC』
 ・パフォーマンスコンテスト
 浜松市で健全育成・まちなか活性化・環境保全などで活動するPAF(パフ・代表内山ゆきゑメダカ)では、3月30日(日)浜松駅北、ギャラリーモールで、浜松まつりの、激練り、音楽にのせて人々を魅了するパフォーマンス『THE☆激練りMUSIC』パフォーマンスコンテストを開く。それに先立って、出場者、サポーター、編曲作品、歌詞を募集しています。興味のある方は、PAF/パフ浜松市中区すまいむら(053-46217514)内山ゆきゑメダカにお問い合わせください。応募締め切りは、3月10日(月)必着です。

『人・ひと・ヒト』だより

今回は事務局に寄せられた多数の年賀状の中から少しだけ使わせて頂きました。●まずは千支から・・・浜松市浜北区の本間穂メダカ。今年も『戌・子(つちのえ・ね)』。戌(イヌ)、茂に同じ、滋る、増加する、陰陽繁雑する意味。子(シ)、植物の芽がきざし始める姿を意味する。今年もは茂り過ぎた枝を剪定し、中まで日が当たるようにし

て、次の新しい芽を伸ばすようにする。
(安岡正篤著・干支の活字より)・・・毎日介護で高齢社会を実感してきます、と。

●浜松市の池田誠二郎メダカ。足ると知る道はいづこや。初日の出。達筆で俳句を。

●磐田市の小林佳弘メダカ。今年には遠江の不思議な歴史、伝説を集めた「遠江国怪奇不思議談」という冊子を発行予定。75歳、老いてますますの達者、だって。

●浜松市の藤野利昭・はつえメダカ。暮れは忙しく、3月より自家製粉やります、と。手打ちそば処・ふじ花

●富士宮市の鈴木偉代メダカ。出席したいのになかなか。3月は休みをとって出席！。みんなに会えるのが楽しみ、と。

●浜松市の蜂須賀千賀子メダカ。いつもありがたい。息子の躍(キック)もサッカークラブにばつて。

●浜松市引佐町の伊藤八右メダカ。リンドウの絵手紙？いいねえ、ひと言あればもっと。

●愛知県東栄町の森下幸子メダカ。95歳になっても仕事に生き甲斐を見出し、日々を楽しんでる母との「愛しい時」を大切にしたい。

●無礼な面のチンドン屋 浜松花蝶ちゃん 座長・浜松市雄踏町の藤田潤吉メダカ。今年には高校3年生。来年は大学生？がんばるぞー。久枝メダカの内助あればこそ。仕事と趣味と学業と。

●浜松市の太田京子メダカ。又絵を描く生活です。(昨年県会議員を3期でやめて)。
●東京「かがり火」の菅原敏一メダカ。めだかの学校15周年、ぜひ成功させてください、協力します。

●浜松市の加茂光廣メダカ。2人の孫から「草笛おじさん」から「草笛おじさん」に、結構イケルかも。だって。

●浜松市細江町の松田不秋メダカ。孫純也(藤枝東サッカークラブ)から、思いもよらぬ初夢プレゼント。だって。試合ごと、国立競技場ではまさに熱烈応援。感動ありがと。私たちも。

●磐田市の島田尚子メダカ。今年も英ちゃん農園でバツタリ、なんてビックリがあるでしょうか。(あるある、行けばバツタリ)。

●「今年も楽しく遊びましよう」だって。誰？差し出し名ないもの。もしかして浜松市の石野省三メダカだったたりして。

●浜松市の古橋利雄メダカ。浜松は政令指定都市になり、住所文字が2字増えました。今年こそ浜名湖で勝負しましょう。

●磐田市の大貫正信メダカ。昨年は私の身体に新しい風を吹き込んで頂き感謝。(サラダコスモ視察・交流ツアー参加)

●浜松市の中村明男メダカ。何でも見てやろう。めだかの学校。新しいエキスをあげよう。(サラダコスモ視察・交流ツアー参加)。

●浜松市の太谷洋介メダカ。正月2、3、4日アクトでザ・骨董フェスタに出店。メダカ欠席でゴメンね、だって。洋介メダカの収集は凄いいよー！

●島田市の増田みち子メダカ。めだかの学校って楽しいよ。榊原さんに会えるのも楽しみ、だって。嬉しいなア。

●静岡市の高橋俊光メダカ。今年こそ出席したいと思いますが、どうしてこんなに忙しく(SBS学苑勤務)なっちゃったのでしょうか、年のせいでスピードダウンしてしまっただけでしょうか。うーん、そうかもね。

●浜松市細江町の山名れい子メダカ。すっかりごぶさた、すみません。こんな私を見捨てぬバラさんに感謝してます。見捨てないよ、ありがたい。

●浜松市の村木謙式メダカ。今からまた寝不足になりそう。元気に感動しましょう。とロテル・ド・寸座の支配人。口ひげ生やして奥様と。

●浜松市の渥美登良男メダカ。浜松史蹟調査顕彰会専門員、職業訓練校造園科指導員。夜の運転は無理とか。細江町の「姫街道」では講演も。服部守孝メダカの中学の時の恩師でもあります。めだかもお世話に。

●浜松市の勾坂玲子メダカ。娘が10月フランスより帰国、就職・成人です。私はバラ三昧。だんだん時間を作っていくようにしなきゃあ、だって。(娘さん、フランスでケーキづくり修行)。

●取手市の篠原準八メダカ。昨年は「里山摘み草料理歳時記」出版。今年には「山野草摘み草食べ頃図鑑」(仮題)出版予定。日光市での全国つみくさサミットも決まっています。だって。道草しながらの摘み草も忙しい。

●藤枝市の小嶋良之メダカ。地球温暖化、県議選お手伝い、中国旅行、コンサート、俳句、SBS学苑講師など・・・と。今年「メッセージ」は、岡本太郎の詩「愛する言葉」恋愛だって。芸術だっておなじだ。一体なんだ。全身をぶつけること。そこには素晴らしいさがある(以下略)

●浜松市の武井紀雄メダカ。今年も敬愛する坂村真民さんの詩を贈ります、と。「ねがい」

●見えない 根たちの ねがいこもって あのような 美しい花になるのだ

●静岡市の鈴木芳徳メダカ。夏はセミの抜け殻しらべ、秋は葉っぱの色しらべ、冬は落ち葉の刷り出しあそび・・・街なかで自然の楽しみを模索しています。公園で子どもたちと向き合っていると誰かがやるべき分野だと、事業化へのカベをいつか越えたい、今年も一歩づつです。

●浜松市天竜区の本島慎一郎メダカ。昭和57年、故羽生紀夫先生と「北遠わたしたちの未来」を提案し、三遠南信に関わって17年、すばらしい仲間にも恵まれ感謝、NPO法人 雲を耕す会 に参画、自分の出来ることを探したい。

●宮城県登米市の面白人、工藤利夫さん。今年には「美味しの国 伊達な旅」のコンビ元、仙台・宮城ティスティーネーションキャンペーン10月から12月まで開催。登米市へ遊びにいらしてください。

●飯田市の長谷部三弘さん(風工舎主宰)。限界集落あちこちに、体力・気力・財力も限界、むら興し容易ではありません。鄙の地でもうにかやっています。と。「塩輪の版画」すばらしい。

●仙台市の大山捷夫さん(民族歌舞団ほうねん座団員)。体の調子もあり、今は座は休んでいる。榊原さんの新しい地域での「地域おこし」という言葉に、熱いものを感じているところです。いつか会えるのを楽しみにしています。

●掛川市の遠州横須賀倶楽部(活動21年目)やっかい者のネズミたち、でも彼らのいる家や船は安全。倶楽部もいい意味で、まちのネズミでありたい。だって。

●寒中お見舞いの静岡市清水区の花井孝メダカ。・・・私には時間がないと言いつのに、本年の目標も「一寸光陰不可軽」のもとに闘って参ります。気分は青年！青年は荒野をめざす。だって。ただのじいじと言いつながら・・・

※もつともつと載せたかったのですが、紙面の都合で今回はこれまで。「バラさんの街角ファイル」と「めだか春秋」はお休みさせていただきます。

トピックス

■めだかの学校15周年記念

「おもしろ人交流会inめだかの学校」の日程と会場決まる

めだかの学校、15周年記念の仮称『めだかの学校 大学院』―誰が生徒か先生かもしかしてあなたが先生かも―の日程と会場が決まりました。

『とにかくめだかにこだわりたい』ということから、日程は20年6月6日(金)午後1時〜7日(土)正午まで。会場は、10周年の時にもお世話になった、引佐町奥山の「奥山方広寺」。内容はこれから実行委員会で詰めていきますが、会費は、参加費・交流会・宿泊・朝食など含めて1万円以下でおさめる予定です。

◎緊急のお願い◎

―15周年誌の―

「めだかと私」の原稿について―めだかの学校10周年の時に、10年誌を発行する予定でしたが、発行できませんでした。

「めだかと私」で原稿を提出した生徒はそのまま使用させていただきます。それ以降に入校した生徒および在校生で、まだ提出していない生徒は、記念誌でもありますので提出してください。

＊文字数 2500字以内・顔写真添付

＊締め切り 2月20日。

＊送り先 事務局 榊原幸雄あて。

(15年誌編集長 加藤修一メダカ)

■事務局だより

寒中お見舞い申し上げます。

「これでも温暖化?」と思う人がいるかも。寒むーい。昨年二月に「いなさ湖」に播いた菜の花が咲いていました。3月下旬ごろだと思っていたのに、びっくり。まさに地球規模で広がる温暖化。まったなし。家の電気をこまめに消し、余分な暖房は使わない。自然光を大事に使用して早寝早起です。

さて第8回のめだかの学校は、12月7日、校長大場敬子、教頭池谷俊裕、用務員土井堅史。先生は社会科「三遠南信に夢をのせて」の松田不秋メダカ。仕事や風邪などで体調をくずしている生徒も多く、出席した生徒は45人と少なかつたが、レジメや資料を配ったの松田不秋メダカの三遠南信に寄せる熱意に学舎は熱気に。

授業は、11月14日に飯田市で開催された「三遠南信サミット2007 in 南信州」の報告。交流から連携へ、地域が自ら描く協創のビジョン「250万流域都市圏の創造―世界につながる日本の中央回廊―」三遠南信地域連携ビジョンが発表された。奇しくも私をはじめ「めだかの学校」で授業を受け持った時、第1回三遠南信サミットが開かれ、『三遠南信連携ビジョン』が発表された今年に先生にさせていたいたのはなにかの「縁」と。そのあと長年にわたって蓄積した三遠南信地域における民俗芸能など歴史や文化をスライドを通して解説。南朝道遺産「隠れ里」と野武士文学「熊谷家伝記」と「関伝記」では天龍村坂部の里で今も伝統を守りつづけている関福盛・京子メダカがスライドで語られる。教室の雰囲気から池谷教頭、時間延長する。(注)松田不秋先生の最初の授業は、平成9年2月14・15日焼津市で第6

回地域づくり団体全国研修交流会が開かれ、その流れから15日の夜、学舎で大会参加者とめだか生の交流の特別教室を開校。「伝統芸能と地域づくり」で話された。

お待ち兼ねの給食は、風邪で欠席の給食当番が多く、早く来てくれた生徒を投入しての年越しの海老が踊る「馳走走」した。年越しの乾杯はお汁粉で。いやア、おいしかった。私語飲食全て禁止の次回3役発表。20年3月7日の第9回は、校長榊原淑友、教頭内山ゆきえ、用務員鈴木祐之。町長選立候補やめての校長、「まち、行っかー」の教頭、2人を額で輝かす用務員。異色おもしろ3人組。22時15分、ローソクを灯しながらのお別れ会は、ローソクなし、「聖しこの夜」の歌だけに。なにはともあれ、「みなさま、良いお年を。」

第9回のめだかの学校の職員会議を、1月11日午後7時から豊岡元氣村「味里」で開く。59回は、20年3月7日。15周年の実行委員会との合同会議でもある。15周年の責任者である村松達雄メダカから「前もって話したい」とのことから、1月9日「味里」で、村松達雄、鈴木武史、鈴木正士、榊原淑友、上嶋裕志、石野省三、伊藤英雄、榊原幸雄の8人で話し合う。「全国の人を対象にするより「めだからしく行こう」と、日程は6月6日(金)・7日(土)の2日間、呼びかけの対象はOBも含んだ「めだか生」、県内の地域づくり面白人、県外はめだか生と「縁のある人。定員は150人など、案を決める。」

話しはもどって、職員会議で15周年の概略を説明、了承を得て、第9回の授業についての話し合いに入る。「通年テーマは「界を超えて」」。59回は遠州弁で「蚊帳の外」。一時間目、国語「遠州弁で「蚊帳の外」が見えるかや」加藤直樹先生。二時間目、美術「アット@蚊帳アット 読めるかや」

濱田綾子先生。三時間目、社会「いいだにこれからどうむかやア」大貫正信先生に決まる。突然上嶋裕志メダカが吹き出す。「まじめな顔でダジャレ出しあつて：アハハハ、おもしろい」だって。新年会も兼ねていたので、伊藤英雄先生の音頭で、お茶で「カンパイ、今年も楽しく行きましよう」。

■今回もお礼とお詫びを：

「今回は少し早いみたいね」と妻の明美さん。結果は：いつもと同じに。そんな私を支えてくれた松本芳廣、鈴木武史、伊藤英雄、本島慎一郎、服部守孝、上嶋裕志、水島加寿代、間瀬亮太のメダカさん、ありがとうございました。感謝。

■第15期の継続と申し込みについて

第15期は、平成19年9月1日から20年8月31日までです。まだ継続手続きがなされていない生徒は、自動退学となりまして、ご了承ください。いつでも再入学できます。入校希望者がありましたら、ご連絡ください。申込書と資料を送ります。

■めだかの学校だよりの原稿を！

次回の発行日は5月1日、原稿の締切りは4月15日(火)です。事務局まで郵便かFAXで。メールの方は、

《mabuchi-trd@yrc.tnc.ne.jp》

間瀬亮太0900500910986です。(メールの方は割付の関係もあるので一報を。)

■めだかの学校の事務局

〒43810105 静岡県磐田市家田52番地20 榊原幸雄方 TEL053916216691 (FAX同じ)

※学舎「みどりの郷」には電話はありません。連絡・お問合せは事務局へ。

